

玉置 淳子

近畿大学医学部公衆衛生学教室 准教授

大規模無作為集団 15 年追跡による QOL 高く生き抜くための心と健康の包括的アウトカムの開発

日本人女性を対象とした Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) コホート研究の 15 年次追跡調査を用いて、高齢者が人生を QOL 高く生き抜くための要因を探るため「こころと健康の包括的アウトカム」として 15 年次調査の参加／不参加を結果指標とするモデルを検討した。

15 年次調査の追跡率は 71%であったが、80 歳代で 46%と急減していた。15 年次調査参加／不参加についての多重ロジスティック回帰分析の結果、ベースライン調査時の運動習慣、握力、牛乳摂取習慣（1 日 1 杯以上）、骨粗鬆症、追跡 10 年間の骨粗鬆症性骨折発生が有意に調査参加に関連していた。また、10 年時の QOL 尺度である身体の痛み、心の健康も、調査参加と有意に関連していた。モデルによる期待参加確立は、15 年時の QOL 尺度、身体運動機能と有意な相関を示した。これらの要因は、高齢者が外界に関心を持ち、社会に積極的に関与する身体的、知的、心理的、社会的能力の高さを維持する要因である可能性が示唆された。